

いま いま
宮城は現在も現実に立ち向かう。

2016.12.11

NOW IS.

Vol.
8
毎月11日発行
ナウイズ



in
多賀城・七ヶ浜

NewsPaper Pick-Up

多賀城市

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。



多賀城市建設局
震災当時の写真
浮く車体、衝突何度も 入り込む水、間一髪で

多賀城市の自宅へと向かう途中で大津波に襲われた生々しい被災体験が掲載された平成23年3月16日の記事。「渋滞で車が進まない。発生50分後、『津波だ！』『逃げろーっ』。道路沿いのトラック倉庫から叫び声が聞こえた。」とあるように、津波が来るのが直前まで分からなかったことがうかがえます。

多賀城市の浸水面積は地域の約33.7%。仙台港方向から押し寄せる津波のほか、砂押川を遡上してきた津波などが幹線道路を水路代わりにして進むことで、海のある方向ではない、思わぬ方向から津波が押し寄せ、内陸部にも大きな被害をもたらしました。

渋滞を襲った大津波



いのちと地域を守る

平成28年7月10日の記事には、今春、多賀城高校に新設された「災害科学科」のカリキュラム等が紹介されました。防災系専門学科の新設は兵庫県立舞子高校に次ぎ2例目となります。

災害に関する専門科目がカリキュラムの4分の1を占め、外部講師による授業や野外実習など内容も多彩。大学や研究機関とも連携し、高度な授業を目指します。今春入学した1期生は38人。東日本大震災の教訓を基に、防災分野で活躍できる人材の育成が進められています。

東北初の防災系専門学科

©河北新報社 ※記事の詳細はみやぎ復興情報ポータルサイトに掲載します。



被災直後の七ヶ浜町
無料アプリ「ココアル2」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在(平成28年11月)の七ヶ浜町の様子をご覧いただけます。

COCOAR2のダウンロードは「Google play」「App Store」から
COCOAR2に対応していない端末もごさいます。



震災前の七ヶ浜町

現在の七ヶ浜町

撮影地点
花測浜

AR

で見える
定点観測
Look at Miyagi

無料アプリ「ココアル2」をダウンロードしてご覧ください。

VOICE of KEY PERSON
貴方がいれば大丈夫
01
この人がこの町を盛り上げてます！



七ヶ浜国際村
パフォーマンススカンパニー
NaNa5931 (ナナゴークューサンイチ)
かまた えりか
鎌田 恵利加 さん



11月に公演された「おっぴいど海〜KAIRIより〜」



「七ヶ浜の魅力伝えたい」と鎌田さん



多賀城市建设部下水道課
ささき ひとし
佐々木 悟史 さん
平成28年4月から
山形県天童市より多賀城市に派遣



地盤沈下による浸水被害の解消を目的とした明月雨水幹線整備工事。

復旧から復興の佳境へ
皆が納得できる計画づくり

「自分の力が誰かの役に立つ。その上、ほかの地域で経験を積めるなんて、またとない機会だ」と思い、自分から希望を出しました。佐々木悟史さんは、今年4月に山形県天童市から多賀城市の下水道課に派遣されました。天童市は多賀城市の友好都市。震災後は多くの職員を派遣しているとともに、平成25年度に天童市が豪雨による影響で断水に見舞われたときは多賀城市から多くの支援が行われました。「どちらの市も人口6万人ほどで、規模はほとんど同じですが、業務の進め方や体制づくりなど、学ぶことは多いと感じています。」

佐々木さんが現在携わっている業務は、公共下水道雨水施設の整備や復興交付金の申請にかかわる業務です。下水道施設は宮城県全体でも迅速に応急対応が終わった分野のひとつですが、震災により新たな課題が生

じたため、「復興」はまだ完了していません。地盤沈下で高地と低地が逆転している場所もあり、復興計画通りに進行するのはなかなか難しい状態です。関係管理者との協議や新たな予算の申請など、ひとつひとつの業務に密な調整が必要です」と佐々木さん。「市民の方が納得できる施設をつくれるよう、根拠をしっかりと持ちながら慎重かつ迅速に計画を策定できるように努めています。」

佐々木さんが初めて被災地に足を踏み入れたのは震災直後。「がれきだらけだった被災地は今、着々と街づくりが進んでいます。5年という年月と多くの人の手がかかって、ようやくここまで来ている。被災地では大変な事業が展開されているんだと感じています。」

これからも若い人に復興支援に積極的に来てほしい、と佐々木さん。「この経験を肌で感じて財産にしてほしいと思います。私も残りの期間で、何かやり遂げて帰りたいですね。」

つながりの強さに感激。
友好都市の職員として
最大限の協力を

VOICE of KEY PERSON
貴方がいれば大丈夫

02

この人がこの町を盛り上げてます！

明日への取り組み：むすび塾

河北新報 防災・減災 巡回ワークショップ

「南海トラフ」巨大津波を想定し、観光客の避難誘導を検証。

平成28年9月3日の「むすび塾」は神戸新聞社との共催で、兵庫県南あわじ市福良地区で開催されました。淡路島の南端にあり、渦潮見学など年間88万人の観光客が訪れる観光地。観光客の安全確保をテーマに、地元の観光関係者や大学生、岩手、宮城両県の東日本大震災の語り部3人が加わって約50人で津波避難訓練を実施し、終了後は参加者16名で課題を話し合いました。

訓練では、南海トラフを震源に最大震度7を観測し、津波が来ると想定。参加者は、避難誘導役と観光客役でそれぞれ避難場所を目指し「車で逃げたい」「スマホを忘れたので戻りたい」と訴える観光客役を説得するなど、予想されるハプニングへの対応も行いました。

訓練後の話し合いでは「早く避難してほしいが、急がせるとパニックになりかねない」「お客さんに言い張られたら説得は難しい」といった声が上がりました。避難ルートの確保や、避難生活の長期化による観光客と住民との共存方法など、多方面にわたり議論。進行役の一般社団法人 減災・復興支援機構の木村拓郎理事長は「南海地震は家屋の倒壊や津波が同時に起きる。まず身を守ることが津波避難の基本」と指摘しました。震災の語り部3人は、過酷な体験談や、残された遺族の悲しみ、備えの大切さを訴えました。参加者は「誘導側が落ち着いた言動をとれるように備えたい」「地域一体となって避難路や津波標識を整備し、観光客に分かりやすい避難につなげたい」などと決意を新たにしました。

日本のどこでも発生する可能性がある災害。犠牲を繰り返さないために何ができるのか。東日本大震災の教訓を全国、そして後世に伝えていくことが重要です。



今までの「むすび塾」の記事は河北新報社のwebサイトでご覧いただけます。



<http://www.kahoku.co.jp/special/bousai/>

むすび塾とは

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社が開催する巡回ワークショップ。「いのちと地域を守る」のちと地域を守る」キャンペーンの一環として、平成24年5月から月1回、町内会や学校、企業などで開催し、平成28年12月で通算61回目となりました。

目的は、対談を通して震災時の教訓や減災・防災への備えを、あらためて考え直すこと。ワークショップの様子は、河北新報紙面でも公開し、防災や復興への行動を後押ししています。

STAFF'S VOICE 取材こぼれ話

編集後記

「ポッケ、うまいですよ」。本誌の取材中、何度も遭遇したセリフです。ポッケ、本名はケムシカジカ。海底を泳ぐ魚で、冬が旬。身も肝もぶつ切りにして、鍋にして食べます。真っ白な湯気の中

うで待ち構えるぶりの自身にトロリと溶ける肝、濃厚な出汁…。考えただけで我慢できない！と、いうことで、この入稿が終わったら民宿に泊まりに行くことに決めました。仙台から日帰りで

行ける多賀城市と七ヶ浜町ですが、泊まりでエリアの魅力を満喫するのもいいですね。宮城の冬は、魚も野菜もますますおいしくなる季節。ゆっくり足を運んでみてください。



七ヶ浜国際村 野外シアターやホールがあります

宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) **10,553人** | 行方不明者数 **1,234人** | 平成28年10月31日現在 宮城県危機対策課調べ

NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。

NEWS 01 被災者の安定的な雇用の創出を支援します！

県では、東日本大震災で被災した方を雇用する事業主を対象として「宮城県事業復興型雇用創出助成金」を支給し、雇入れの支援を行っています。この助成金は、県内の沿岸部の事業所において、被災者を雇用した事業主を対象としており、労働者1人当たり最大120万円を支給します。受付は平成28年12月16日(金)から平成29年1月20日(金)までです。なお、申請には一定の要件がありますので、詳しくは県雇用対策課のホームページをご覧ください。か、下記にお問い合わせください。

助成金に関するお問い合わせ先
宮城県事業復興型雇用創出助成金事務センター
(株式会社インテリジェンス) ☎.022-722-6322
県雇用対策課 ☎.022-797-4661
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koyou/fyousei-top.html>

NEWS 02 JR常磐線「相馬駅・浜吉田駅」間の運行が再開しました

平成28年12月10日、東日本大震災による被害で運行休止区間となっていた、「相馬駅(福島県)・浜吉田駅(亘理町)」間の運行が約5年9ヶ月ぶりに再開しました。

再開区間は約23・2キロで、津波で甚大な被害を受けた駒ヶ嶺駅(福島県)・浜吉田駅の線路と、同区間内の新地(福島県)、坂元(山元町)、山下(山元町)の3駅が内陸側に移設されました。今後、JR東日本では、福島県内の運休区間に関し、平成31年度末までに再開する見込みとしています。



県総合交通対策課 ☎.022-211-2437

NEWS 03 多賀城市 災害公営住宅完成 式典開催

多賀城市では市内4地区532戸すべての災害公営住宅の整備が完了し、被災者生活再建の基盤が整いました。これから、入居者の連帯感と防災・減災への意識を高め、未来へ向かって豊かな生活を送るための一助となるよう、「災害公営住宅におけるコミュニケーションづくり」等に関する講演会を含めた完成式典等を開催します。

日時/12月14日(水)13時30分から
場所/多賀城市民会館小ホール(市文化センター内)
第1部:記念式典 13時30分から
第2部:記念講演等 14時30分から
・「安心して暮らせる災害公営住宅について考える」講演会
講師:東北工業大学准教授 福留邦洋氏
・「庄司恵子」トーク&歌謡ショー
多賀城市建設部都市計画課 ☎.022-368-1141



NEWS 04 旬な海産物と新鮮野菜の地場産品直売「七の市」

震災後、七ヶ浜町の仮設店舗「七の市商店街」で開催していた「七の市」。本設店舗への移転のため仮設店舗はなくなりましたが、町にぎわい創出を願い、花刈浜地区の漁協に場所を移し開催しています。旬の新鮮な魚介類や野菜のほか、月替わりの目玉商品を用意して、皆さまのお越しをお待ちしております。



日時/平成28年12月25日(日)9時から12時、平成29年1月29日(日)9時から11時
場所/宮城県漁協七ヶ浜支所(七ヶ浜町花刈浜)、「七のや」の隣接地
多賀城・七ヶ浜商工会 ☎.022-357-3912

NOW IS / MIYAGI

MEDIA INFORMATION

今の被災地をリアルタイムで

SNSでは、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。Facebook、Instagram、Twitterでご覧ください。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。



葛蒲田浜(七ヶ浜町) [2016/11/12]

各SNSの検索窓で

復興情報をお伝えします

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、NOW IS取材チームによるブログで情報を発信します。



みやぎ復興情報ポータルサイト <http://www.fukkomiyaagi.jp>

Theme ⑧ 心のケア

大災害によって強いストレスを受けた心には、ケアが必要です。

特に配慮が必要な人にはどう接したらいいのか、
いつもとは違う状態の自分をどう受け入れたらいいのか。
大切な誰かや自分の心を守るために、覚えておきましょう。

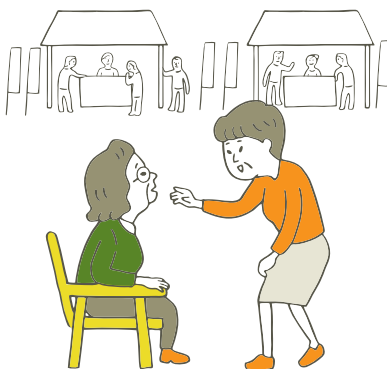
子ども



赤ちゃん返りやソワソワ
サインを見逃さないで！

甘えん坊になったり、落ち着きがなくなったり、子どもがいつもと違う行動を取るの
は“つらいよ…”“悲しいよ…”のサインです。子どもが安心できる環境をまわりの大人
たちがつくってあげましょう。

高齢者



孤独が一番の敵！
相談相手がいる環境を

高齢者の中には住む場所や環境が変わったことになじめず、家に引きこもりがちな
人も…。地域のイベントなど、自然な交流で相談相手がある環境ができるよう、まわ
りの人が気に掛けることが大切です。

復興従事者



同じ被災者同士
感謝の気持ちを忘れずに

自治体職員など復興従事者の多くが被災者でもあります。生活の困りごとや要望などを
伝えることは大切ですが、感謝の気持ちを持って穏やかに伝えるだけで、お互いのス
トレスが軽減されることを忘れずに。

取材協力：東北大学災害科学国際研究所 富田 博秋 教授

防災コラム Vol.8

★“自分は大丈夫”ではない！

★必ず誰かに相談しよう！

★気長にケアしていこう！

心のバランスが崩れることは誰にでも起
こりうること。“自分は大丈夫”とは思わ
ず、気分が沈んだり不安感に襲われるこ
とが続くようなら、必ず誰かに相談しま
しょう。専門の医療機関を受診すること
も有効です。また、心の傷は時間がたっ
てから深刻化したり、回復に時間がかか
る場合もあります。一気に解決しようとせ
ず、気長にケアしていきましょう。

富田
博秋
教授
東北大学災害科学国際研究所



災害医学研究部門災害精神医学分野に所属。メン
タルヘルスの観点から、東北メディカル・メガバン
ク機構予防医学・疫学部門にも参画している。